

テ筭用申付、内陣已下已上廿五帖之ヲモテ替也。十九日、當月之神事ニ、神前内陣疊悉面替申付、十一年八月十八日、寶殿政所御出之所、厚疊十六帖御座疊一帖面替申付、次黄衣之番所疊十一帖申付、

〔續武家閑談 十七〕一台徳公○徳川秀忠ハ東照宮○家康ヲ殊外御敬遊サレ、薨御以後初物何成共、御宮へ御献上アリ、毎月十六日ヨリ堅キ御愼ニテ御著服ハ申ニ不及、御座ノ間ノ御疊モ毎月十六日表替被仰付、

〔梵舜日記〕元和六年六月卅日、當院客殿疊面替、彦三郎來申付也、兩人來也、七月三日、當院勤行延引、疊面替付如此也、

寛永四年十二月廿八日、彦三郎ニ疊ユルリ申付也、面替也、九年九月廿七日、疊面替、彦三郎申付也、廿九日、今日迄疊面替相濟也、

〔七十一番歌合 中〕四十三番 右 疊刺
獨ふすた、みのうらのかくし。針人にしられぬ戀もするかな

〔毛吹草 三〕攝津 玉作疊針○中 疊抱丁○徒口反、上聲之重、此間

〔倭名類聚抄 十四 具〕圓座 孫愼曰菡○徒口反、上聲之重、此間 圓座、一云和良布太、圓草褥也、

〔運步色葉集 衛〕圓座

〔書言字考節用集 七 器財〕圓座○中 圓座○和名、圓草 圓座○和名、圓草

〔和漢三才圖會 三十二 家飾具〕菡○徒口反、上聲之重、此間 圓座 和名和良布太 此間云圓座○中

按用藁作之、鋪于地上座者也、有蘭菡有蒲菡出於讚州者美、

〔倭訓栞 前編 四十四 菡〕菡○徒口反、上聲之重、此間 圓座と書り、讚岐國の出す處の菅圓座、三代實録に見えたり、大さ徑り二尺ばかり、厚さ二寸餘りとかや、大饗などの時に用ゐさせらるゝは、玄とねの圓き也といへ

名圓座